

2022年12月17日

八千代市郷土歴史研究会例会用 蕨由美

四夜叉・二童子付青面金剛像庚申塔





庚申待で拜む本尊は青面金剛像の掛け軸で、干支の申（さる）から、「見ざる・言わざる・聞かざる」の三猿や、申の次の酉（とり）から雄雌の鶏も描かれていました。

青面金剛は、三眼の憤怒相で四臂(実際は六臂が多い)、各手に三叉戟・棒・法輪・羅索（綱）を持ち、足下に邪鬼を踏まえ、両脇に二童子と四夜叉（赤・黄・白・黒色の鬼神）を伴うとされています。

左：青面金剛の掛け軸（Wikipediaから）



青面金剛の像容

『陀羅尼集経・第九』

一身四手、左辺の上手は三叉を把る。下手は棒を把る。右辺の上手は掌に一輪を拈し、下手は羂索を把る。其の身は青色、面に大いに口を張り、狗牙は上出し、眼は赤きこと血の如く、面に三眼あり、頂に髑髏を戴き、頭髮は豎に聳え、火焰の色の如し。頂に大蛇を纏い、両膊に各、倒に懸ける一龍有り。

竜頭は相向う。其の像、腰に二大赤蛇を纏う。両脚腕上に亦大赤蛇を纏い、把る所の棒状も亦大蛇を纏う。虎皮を胯に纏す。髑髏の瓔珞、像の両脚下に各、一鬼を安ず。

其の像の左右両辺に各、当に一青衣の童子作るべし。髮髻両角、手に香炉を執り、其の像の右辺に、二薬叉を作る。一は赤、一は黄、刀を執り索を執る。其の像の左辺に二薬叉を作る。一は白、一は黒。銷を執り、叉を執る。形像並びに皆甚だ怖畏すべし、云々

左：青面金剛像の「大津絵」（歴博展示から）

印西市大森 長楽寺の庚申塔
正徳5年（1715）銘

2004.12.30撮影





佐倉市飯田の庚申塔
享保11年（1726）銘

2022.12.7撮影



浦安市堀江宝城寺の庚申塔

元文元年（1736）銘 八臂

2022.12.9撮影



江戸川区の庚申塔



東宇喜田真蔵院 元禄11年(1698)銘
四臂。夜叉の像容が大津絵に似ている。
三猿はない。 2009.8.17撮影



松島東福院 享保12年(1727)銘
ラインダンス型の四夜叉
2009.8.21撮影



小松川神社 延享元年(1744)銘
夜叉は金剛像の両脇に配置される
(『江戸川区の文化財 第四集』から)

国東の旅にて



真木大堂古代公園
享保2年（1717）
2012.10.16撮影



真木大堂古代公園
享保13年（1728）
2012.10.16撮影



杵築城山公園石造物群
享保9年（1724）
2012.10.16撮影

二童子付の作例



江戸川区下鎌田地蔵堂前
天保10年(1839)銘
二童子二邪鬼付、腰に竜をまとう
2009.1125撮影



八千代市勝田字新山 延享2年(1745)銘
石塔の右面と左面に二童子を浮彫 左:2014.9.26 右:2022.3.13撮影

